



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

パート I. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの継続的指示の表明

2024年2月7日

ステークホルダーの皆さまへ

上智大学長 曄道 佳明



国連グローバル・コンパクト Communication of Engagement

この文書は、上智大学が国連グローバル・コンパクト(以下、「UNCG」と称す)を継続的に支持することを表明するとともに、UNGC の 10 原則ならびに UNGC が推進する取組みを実践してゆくために、今後も最大限努力することを誓約するものです。

本学は、2015 年に UNGC に署名して以来、主に以下に掲げる 3 つの領域で UNGC の活動に参加してきました。取組み内容については、添付の資料をご参照ください。

1. グローバル・コンパクトに関連するテーマを扱う教育の提供
2. グローバル・コンパクトに関連する応用研究とソートリーダーシップを実践すること
3. グローバル・コンパクトの原則を発信すること

本学は、UNGC の 10 原則及び持続可能な開発目標(SDGs)の推進に貢献することを教育及び研究の長期目標に掲げています。本学は、設立母体であるイエズス会の教育精神「For Others, With Others(他者のために、他者と共に)」に基づき、表が国のみならずグローバル社会に奉仕する人材の育成を主たる教育理念としています。かかる意欲と精神によって、本学は、地球規模で UNGC を推進するために、国内外のアカデミアに先して取組んでまいります。

以上

パートⅡ. 取り組み状況(2022 年 3 月～2024 年 2 月)

1. グローバル・コンパクトに関連するテーマを扱う教育の提供

(1) SPSF (Sophia Program for Sustainable Futures)の開設
上智大学は、「スーパーグローバル大学創成支援事業」の構想により、2020 年度に英語による 6 学科連携コース「ソフィア持続可能な未来プログラム“Sophia Program for Sustainable Futures : SPSF ”」(学士課程)を開設しました。



SPSF では、国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」に限らず、戦争や紛争、経済格差、貧困、環境、教育などの問題、急速にグローバル化が進む現代社会において国や地域を超えて起こる地球規模の問題、多様な価値観がぶつかり合う複雑かつ困難な問題、これらの問題・課題の解決に取り組むことを考えるカリキュラムを構築し、将来それらを乗り越える力を養うことを目指しています。

2020 年度から段階的にスタートした SPSF も、2022 年度には 6 学科全てが参画し、学生数は 150 名を超えました。2024 年 9 月には、早くも一期生が卒業を迎えます。異なる学科に所属する学生が、「持続可能な未来」に向けて直面する課題を明らかにし、その解決方法を考え、どのような行動を取るべきかを模索しながら、共に学びます。4 年間の学びのなかで、各自の専門分野の知識を深める自学科の専門科目はもとより、SPSF 他学科の科目や SPSF 以外の学科が開講している科目などを幅広く学び、留学やインターンシップを含めた学内外の実践的な教育プログラムも活用しながら、所属学科の専門分野だけでなく、他分野の視点や考え方を学び、多様性ととともに学ぶ感性を養います。SPSF は、コアテーマである「持続可能な未来」を実現するための教育プログラムです。

<https://spsf.sophia.jp/>

(2)大学院 地球環境学研究科

上智大学では、社会科学と自然科学を融合し、より高度な研究・教育を行う「地球環境学研究科」(地球環境大学院)を設置しています。教員は、法学、経済学、政策学、経営学、社会学、理・工学などの多様な分野の国内外の専門家から構成されており、非常勤講師は、現在の日本の環境研究をリードする第一線の研究者にお願いしています。

また、日本語コースに加えて、英語のみで履修することができる国際環境コースが設置されており、アジア地域、アフリカ、南米、欧米など世界各地から多数の留学生を受け入れています。このため、地球環境学研究科では、自らの問題や関心に応じ、グローバルな視野に立った水準の高い教育と指導を受けることができます。

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/G/G GEnv/G GEnv Genv.html>

(3)国連グローバルコンパクト 4 分野に関する学科目開講

国連グローバル・コンパクトの定める 4 分野(人権、労働、環境、腐敗防止)10 原則について、特に人権、労働、環境を取り扱う学科目を法学部、経済学部、理工学部、大学院地球環境学研究科を中心に多数開講しています。

2. グローバル・コンパクトに関連する応用研究とソートリーダーシップを実践すること

(1) サステナビリティ推進本部の設置

上智大学を設置する学校法人上智学院は、社会的責任(Social Responsibility)を果たす取り組みを一層推進するために、2021 年 7 月にサステナビリティ推進本部を設置しました。本体制の構築によって、SDGs に寄与する本学の研究、教育、社会貢献を整理し、教育研究と同様に法人全体での重点方針として取り組んできたダイバーシティ推進や女性研究者支援などの取り組みを統合し活性化していきます。

また、サステナビリティ推進本部は教員・職員・学生が分野横断的にアイデアを出し合い、そこから新たな価値を生み出していくことを目指すため、学生職員を採用しています。学生職員は、学生の視点から広報、情報収集、制度設計に積極的に参画し、関係部署のサポートを担うだけでなく、学生の目線や発想力・創造力を活かして、サステナビリティ推進本部の業務に携わることができます。

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/global/sdgs/>

(2) サステナビリティと SDGs に関連する研究の推進

サステナビリティをテーマに学部・大学院を横断的に分野を融合した共同研究等を推進しています。

上智大学 人間の安全保障研究所

<https://dept.sophia.ac.jp/is/sihs>

上智大学 地球環境研究所

<https://dept.sophia.ac.jp/is/risgenv/>

(3) 学生団体によるサステナビリティ推進活動

人道支援、福祉ボランティア、教育支援ボランティア、環境保全活動などの多種多様なサークルによる自発的なサステナビリティ推進活動が展開されています。

<https://sophia-sdgs.jp/efforts/cases/club-and-sircles/>

(4) 国連・責任投資原則(PRI)と ESG 投資

学校法人上智学院は、2015 年 11 月に国内の大学では最初に国連が支援する責任投資原則(PRI)に署名しました。上智大学の建学の理念と統合的な投資方針を取り入れ、加盟している GC の原則を資産運用面で実践しています。教育研究機関を運営する学校法人として、責任あるアセット・オーナーとして、今後とも ESG 投資を通じて、グローバル社会の直面する様々な課題解決に貢献してまいります。

また、これに関連して以下のイニシアティブにも参画しています。

- ① 「2021 年 気候危機に関する政府に向けてのグローバル投資家ステートメント」への署名
- ② TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同表明
- ③ Climate Action 100+への参加表明
- ④ 「アマゾンの森林破壊と森林火災に関する投資家の声明」への署名
- ⑤ 国連責任投資原則(PRI)の協働エンゲージメント「Advance」への参画について

上智学院の責任投資の取組み

<https://www.sophia-sc.jp/info/esg.html>

3. グローバル・コンパクトの原則を発信すること

(1) 「上智大学サステナビリティ&SDGs」サイトの開設

2022 年 4 月に、本学のサステナビリティと SDGs 推進に関する活動を網羅したポータルサイトを新設し、教育、研究及び社会貢献に関する情報を発信しています。

<https://sophia-sdgs.jp/>

(2) 「Sophia University SDGs & Sustainability Report 2022-2023」の発行

サステナビリティと SDGs に関する取り組みを中心にした、アニュアルレポートを作成しています。

学生団体の取り組みについては、学生職員がインタビューを実施し、記事を執筆しています。

<https://sophia-sdgs.jp/efforts/4767/>



(3)上智大学国連 Weeks 開催とグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)との共同イベント実施

上智大学国連 Weeks は、国際協力人材の育成を推進するために「国連の活動を通じて、世界と私たちの未来について考える機会」を提供するとともに、SDGs の啓蒙と普及に資することを目的とし、2014 年から毎年 6 月および 10 月の 2 回実施しており、2023 年 10 月までに 20 回開催してきました。新型コロナウイルス感染拡大により、2020 年 6 月は中止となりましたが、以後はオンラインやハイフレックスなど多様な開催形式にて実施しています。

期間中はシンポジウムをはじめとするイベントを数多く開催しており、高校生をはじめ広く社会に本学と国連機関等の活動を広め、本学とのパートナーシップをアピールする場としています。

この国連 Weeks の期間中に UNGC 活動の一環として、主に 10 月に GCNJ と共催でシンポジウムを開催しています。

◆国連 Weeks 2022 年 6 月プログラム

プログラム概要はこちら

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/article/news/announcement/unweeksjune2022/>



◆国連 Weeks 2022 年 10 月プログラム



この国連 Weeks 期間中、10 月 18 日に本学と GCNJ 共催で「パリ協定達成に向けた脱炭素への取り組みと SDGs のインターリンケージ: グローバル・ローカルなイニシアティブ」をオンラインにて開催しました。本シンポジウムでは、社会、経済、環境問題を包括的に捉えた SDGs の課題と脱炭素を目指すパリ協定の関係性と海外・国内の取り組みについて専門家を招いて議論しました。

プログラム概要はこちら

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/article/news/announcement/unweeksoctober2022/>

◆国連 Weeks 2023年6月プログラム

プログラム概要はこちら

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/article/news/announcement/unweeksune2023/>



◆国連 Weeks 2023年10月プログラム

プログラム概要はこちら

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/article/news/announcement/unweeksoctober2023/>



この国連 Weeks 中、10月23日に本学とGCNJ共催で「持続可能な食システムへ：いかに転換させるか？」をオンラインにて開催しました。元欧州経済社会評議会 農業・地域開発と環境担当ユニット長であるエリック・ポンシュー氏を招き基調講演を行い、グローバルな食システムにおけるSDGsと環境問題のインターリンクageに焦点を当て、国内からも専門家が参加し活発に議論しました。

パートⅢ. 成果の測定

1. グローバル・コンパクトに関連するテーマを扱う教育の提供

2020 年度に新設した 6 学科横断の英語学位プログラム「SPSF (Sophia Program for Sustainable Futures)」は反響も大きく、入学した学生は非常に意欲的に課題に取り組んでいます。

学生の声

<https://www.youtube.com/watch?v=tNMEh4A1MUY&list=PLPmHXQbKIWTzvGLfOOEg4PRZTiEepD Xk&index=2&t=195s>

<https://www.youtube.com/watch?v=vpkuvDb2ImQ&list=PLPmHXQbKIWTzvGLfOOEg4PRZTiEepD Xk&index=3&t=190s>

<https://www.youtube.com/watch?v=IDs0jbCGJfI&list=PLPmHXQbKIWTzvGLfOOEg4PRZTiEepD Xk&index=4&t=122s>

<https://www.youtube.com/watch?v=ekAn8pKwFXc&list=PLPmHXQbKIWTzvGLfOOEg4PRZTiEepD Xk&index=5&t=133s>

本学学生の学習意欲は高く、また環境問題や人権問題への関心は学部を問わず高まっています。サステナビリティ及び SDGs に対する関心も高まっており、これらを扱う科目の増加とともに受講学生も増加し、主体的な学びが実践されています。

2. グローバル・コンパクトに関連する応用研究とソートリーダーシップを実践すること

サステナビリティ推進本部の設置により SDGs に代表されるサステナビリティ推進に関して、これに寄与する上智学院傘下の各学校の研究、教育、社会貢献が成果として整理され、社会にさらに強く発信していくことが期待されるとともに、推進における進捗管理や指揮命令系統が整備されました。特にグローバルキャンパス創生のためのダイバーシティ推進、共生社会の実現に向けた学内環境の整備は今後さらに進むものと期待されています。

サステナビリティと SDGs に関連する研究は、学部や研究科を問わず多様なグループによって多くの取り組みが推進されており、今後さらに進展することが期待されます。SDGs をキーコンセプトとするスウェーデンと日本の大学コンソーシアムによる共同研究推進イニシアティブである MIRAI 2.0 プロジェクトや世界のカトリック大学が連携してサステナビリティ課題に取り組む SACRU (Strategic Alliance of Catholic Research Universities) などのグローバル連携も今後の成果が期待されています。

PRI 活動では、2023 年の年次評価(総合評価・組織とガバナンス)において、すべての項目で最高評価「5 つ星」を獲得しました。

<https://www.sophia-sc.jp/info/esg.htm>

3. グローバル・コンパクトの原則を発信すること

国連 Weeks は、現在では来場参加型、オンライン、ハイブリッド形式と柔軟に開催をしています。特にオンライン配信のあるイベントでは、日本国内の全域、世界各地からもイベントへの参加が可能になったことで飛躍的に参加者数が増加しました。参加者は、毎回、学生や一般社会人に加えて高校生も多数参加しており、若い世代に着実にサステナビリティの意識が高まっていることが窺われます。

特に 2023 年 10 月 23 日に開催したシンポジウム「持続可能な食システムへ:いかに転換させるか」では、身近な問題である、食にまつわる課題に関心が集まりました。シンポジウムの最後に、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事の有馬利男氏が「SDGs の 17 番目の目標に掲げられている通り、国や企業、専門家、個人などが相互に協力し合い、継続的に取り組むことが重要だ」と締めくくり参加者とともに課題と取組みを再認識し、情報を共有しました。

国連 Weeks 実施報告はこちら

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/global/weeks/unweeks/unweeks-202206/>

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/global/weeks/unweeks/unweeks-202210/>

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/global/weeks/unweeks/unweeks-202306/>

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/global/weeks/unweeks/unweeks-202310/>